連結決算ハイライト

当期は、各国で経済対策やワクチン接種が進んだことから社会･経済活動が回復基調となった一方で、昨年末からのオミクロン株の感染拡大、資源高や半導体の需給ひっ迫に加え、ウクライナ情勢もあり、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

国内では、新型コロナウイルスに対応する医療提供体制の確保が継続される中、感染状況の波によるものの医療機関における検査・手術件数は回復傾向にありました。海外における医療機器の需要は、感染症患者に対応するための整備に加え、新型コロナウイルス関連以外の需要が回復傾向にあるなど、総じて堅調に推移しました。

当期の売上高は前期比2.7%増の2,051億2千9百万円となりました。利益面では、増収効果に加え、売上構成の変化により売上総利益率が改善したことから、営業利益は前期比14.4%増の309億9千2百万円、経常利益は前期比21.8%増の345億6千3百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比28.5%増の234億3千5百万円となりました。

<国内市場>

国内売上高は前期比0.7%減の1,363億2千1百万円となりました。市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・サービス事業の強化に注力しました。生体情報モニタが好調に推移したほか、前期に低調だった一部製品の需要が回復、ITシステム商談の再開も売上に寄与しました。一方で、自社品販売の注力により、現地仕入品は大幅減収となりました。市場別では、私立病院、診療所市場が堅調に推移したほか、大学病院市場は前期並みを確保しました。一方で、官公立病院、その他市場は減収となりました。

<海外市場>

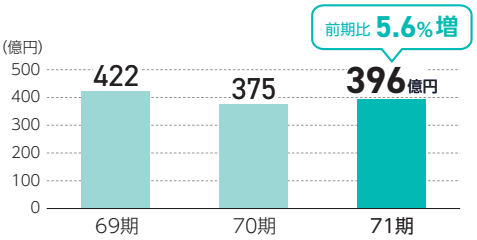
海外売上高は前期比10.2%増の688億7百万円となりました。米国、新興国市場における事業基盤の強化が奏功し、全ての商品群で売上を伸ばすことが出来ました。前期に低調だった一部製品の需要が全ての地域で回復したほか、消耗品・サービスも好調に推移しました。地域別では、前期に需要が増加した欧州は減収となった一方、米州、アジア州他での売上が二桁成長と好調に推移しました。

商品群別の概況（連結）

❶ 生体計測機器

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品、保守サービスなど

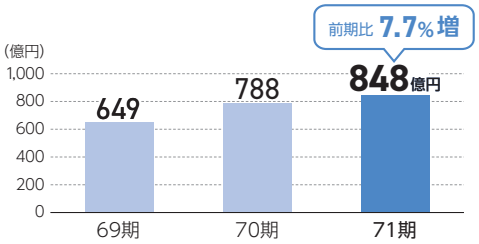
国内	診断情報システムが二桁成長、心電計群も好調に推移しました。脳神経系群は前期並み、心臓カテーテル検査装置群は現地仕入品の減収影響を除くと二桁成長となりました。
海外	脳神経系群が全ての地域で需要が回復し二桁成長となりました。心電計群もアジア州他、中南米で増収となりました。

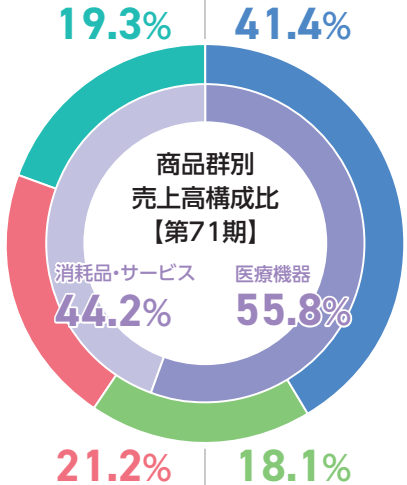


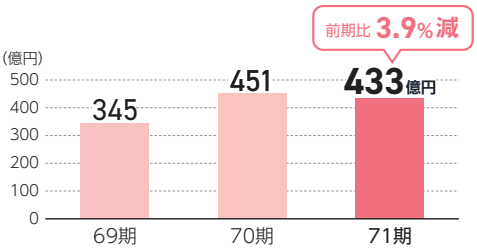
❷ 生体情報モニタ

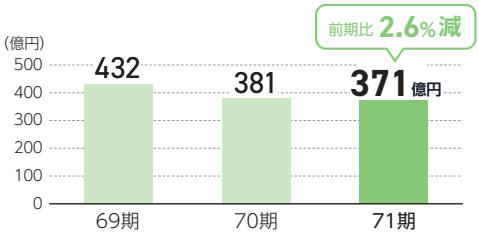
生体情報モニタ、臨床情報システム、関連の消耗品、保守サービスなど

国内	送信機、医用テレメータが大幅増収となったほか、臨床情報システムも二桁成長となりました。センサ類などの消耗品も好調に推移しました。
海外	欧州、中南米は前期の需要増加の反動により減収となったものの、米国、アジア州他での売上が二桁成長となりました。









❸ 治療機器

除細動器、AED、人工呼吸器、心臓ペースメーカ、麻酔器、人工内耳、関連の消耗品、保守サービスなど

国内	前期に需要が増加した人工呼吸器の反動に加え、AEDの一部出荷が期ずれたこともあり、減収となりました。医科向け除細動器は、更新需要が堅調に推移しました。
海外	AEDが需要の回復により全ての地域で大幅増収となったほか、除細動器もアジア州他、中南米で大幅増収となりました。人工呼吸器は前期の需要増加の反動により減収となりました。

❹ その他

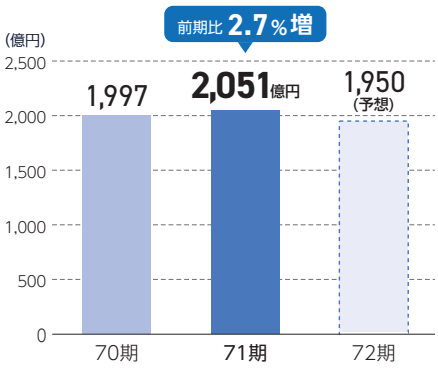
血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、研究用機器、関連の消耗品、設置工事･保守サービスなど

国内	自社品販売の注力により、現地仕入品が大幅減収となりました。医療機器の設置工事･保守サービスは好調に推移し、検体検査装置も堅調でした。
海外	全ての地域で血球計数器･試薬の需要が回復し、大幅増収となりました。特にインドにおいて、新製品効果もあり設置台数が拡大しました。

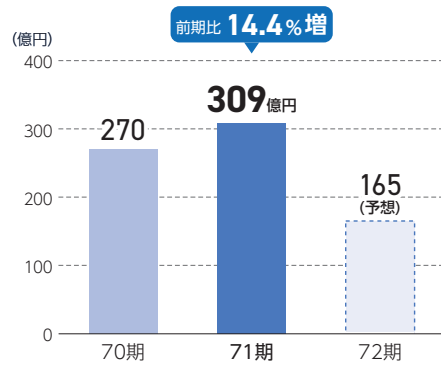
連結決算ハイライト

本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

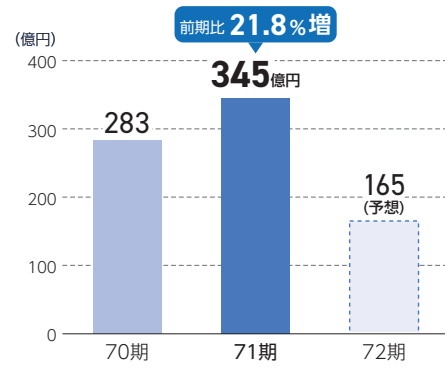
売上高



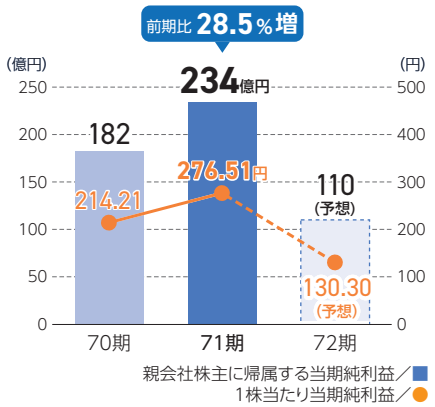
営業利益



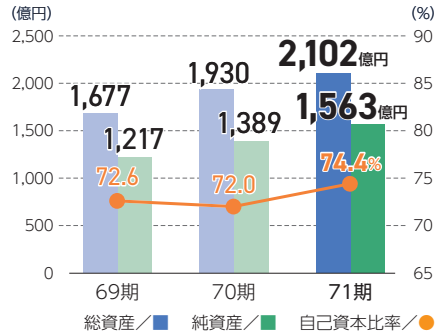
経常利益



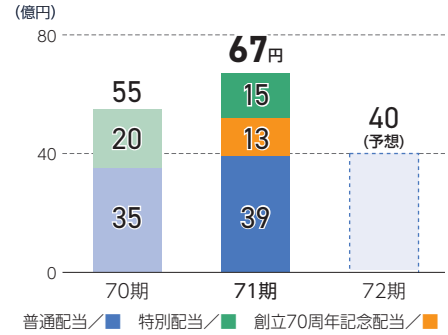
親会社株主に帰属する 当期純利益／1株当たり当期純利益



総資産／純資産／自己資本比率



1株当たり配当金



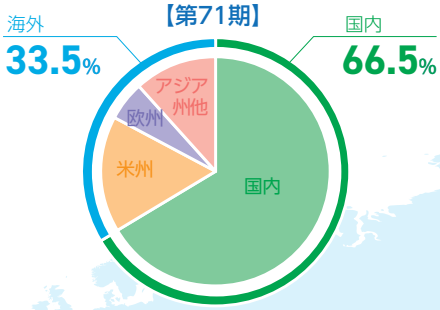
利益配分に関する考え方

優先順位については、①研究開発や設備投資、M&A・提携、人財育成など将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得としています。連結配当性向は30%以上を目標としています。

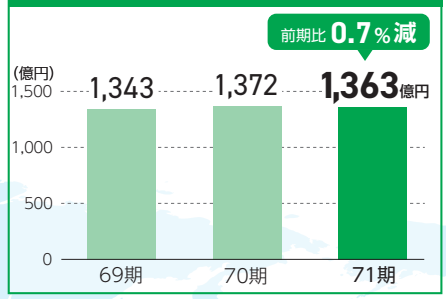
地域別の概況（連結）

米州では、米国が好調に推移した一方、中南米は前期に売上が倍増したコロンビアでの反動により減収となりました。欧州では、一部製品の需要は回復したものの、大幅増収となった前期の反動を補うには至らず、減収となりました。アジア州他では、インド、タイ、マレーシア、エジプトでの売上が倍増し、中国、ベトナムも好調に推移しました。

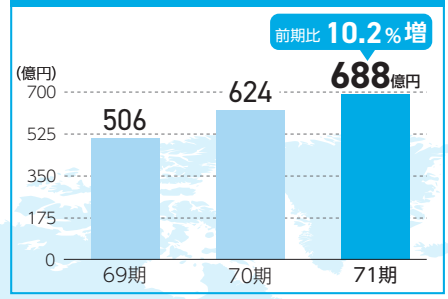
地域別売上高構成比【第71期】



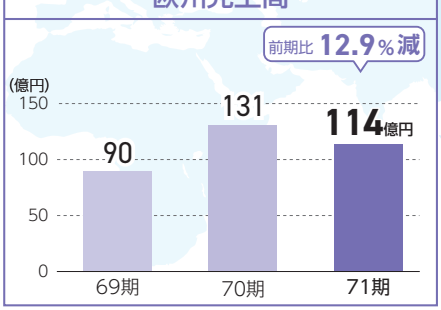
国内売上高



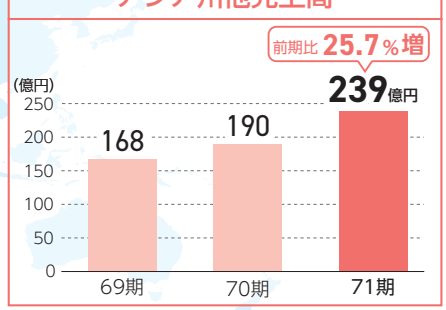
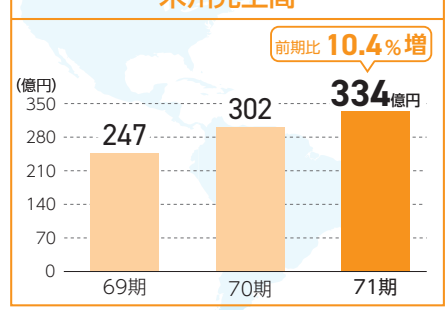
海外売上高



欧州売上高



アジア州他売上高



米州売上高